

自園らしさ・その人らしさの視点から考える保育の質向上と業務の再構築

星の子保育園

保育士が確保できない、離職も多い

当園がある滋賀県大津市は、京都や大阪からほど近い場所にありそのベッドタウンとして、人口が増加していた時期があります。業務改善の必要性を意識しはじめた2015年頃は待機児童も増えている時期で、毎年たくさんの入園希望者がありました。一方保育者については、毎年15%程度の離職率があり、30人いれば毎年5人程度の人が入れ替わるような状況にありました。滋賀県は保育士の有効求人倍率が、一時東京に次ぐ高水準にあり、慢性的な人手不足でした。なんとかしなければと、ノー残業デイなどいろいろ取り組んでみたものの、限定的な効果にとどまっていました。

職員の定着率を高める意図でまず取り組んだこと(2015年頃～)

業務の負担軽減と両立支援

- 処遇の向上
- ノー残業デーの導入
- 短時間正規職員制度の導入
- 書類の量の見直し
- 一部書類を手書きからPCへ
- ノンコンタクト書類の試行



トピック的な制度や、単発的な取り組みでは限定的な効果に留まり、本質的な業務のあり方の変化や好循環へはつながらなかった。

業務の意味の問い直し・再構築(物理的側面)と仕事に対するやりがいや喜び(心理的側面)の必要性

当時、ノンコンタクトタイムのような形も試行してみましたが、あるとき保育者との会話の中で、保育中に保育室を出て、書類を書くということにはためらいがあることに気付かされました。また短時間正職員制度導入などにより、働きやすくなるのはいいが時短勤務をしていると、自分の園の中での役割や、価値そのものがなんだか低下してしまうような気がするという声を聞かせてくれた保育者もいました。保育者の思いに触れ、書類の量を減らしたり時間を確保したりするだけではなく、業務の本質を見直し、書類(計画・記録)など仕事の意味を問い直し再構築することの必要性とともに、働きやすさという側面と併せて、保育者としてチームへ貢献できることや仕事に対する喜びへのアプローチも業務改善には重要な視点ではないかと考えました。

保育内容の見直しと工夫

まず自園の保育内容を振り返り・問い直し、環境を通して子ども一人ひとりを主体として尊重する保育へと見直し、工夫をすすめていきました。環境が変われば保育が変わり、保育が変われば保育者の業務そのものが必然的に変わる。保育の質を向上しようという取り組みと業務の改善・再構築の連動性を意識しました。

保育内容の見直し



Before



After

環境を通して子ども一人ひとりを主体として尊重する保育へ

見直し後

【9-8歳児クラス用】

令和3年度 4歳児 ぼくら組
月別指導計画

施設長名: 〇〇〇〇〇〇
担任氏名: 〇〇〇〇〇〇

<p>自己肯定感と主体性、社会性を育む視点</p> <p>子どもと保育者の関係性に関すること ◎様々な状況の中で安心して過ごすことができるように保育者も意識しながら関わる。 ◎子どもと一緒に生活の中で言葉遣いや動作を丁寧に行い、常に子どもの視点であることを意識し、子どもたちも丁寧な姿勢ができるようになる。</p> <p>◎自分で考えたり、挑戦しようとしたりする気持ちを褒める。 ◎子どもの話を聞きながらも、「じゃあどうしたらいいだろう」「〇〇はどうかなや」とさりげなく補強するなどして、自然と子どもが自分自身で考えを述べられるようにしていく。</p> <p>子どもと周囲の人との関係性に関すること ◎保育者や先生との関わりやサークルタイムの活動の配膳の場に関わりを持ち手を握ったり、友達の手を握りそれぞれのお話をすることができるようになる。</p> <p>◎サークルタイムの中で友達の話に対して子ども同士で聞きたいことがあったら一人ひとりお話を聞いてあげることができるようにする。 ◎異年齢の関わりを積極的に持ち、色々な人と関わる機会を増やしていく。 ◎園庭やクラスで遊ぶ中で異年齢と過ごす時間を増やし、年下の子に思いやりや上のお手本を見せたりできるように工夫を凝らす。 ◎サークルタイムの中で異年齢の友誼をテーマとして話し合い、年齢による考えの違いや合った関わり方について考える。</p> <p>自己肯定感を醸成する要素 ◎無条件で愛される経験があること ◎成功体験があること ◎自己肯定感、自尊心の向上につながる経験</p> <p>自己信頼性 ◎自分で決断し、行動できること ◎自己肯定感、自尊心の向上につながる経験</p>	<p>園で大切にしたい視点を計画に反映</p> <p>◎子どもが自分で考えたり、挑戦しようとしたりする気持ちを褒める。 ◎子どもの話を聞きながらも、「じゃあどうしたらいいだろう」「〇〇はどうかなや」とさりげなく補強するなどして、自然と子どもが自分自身で考えを述べられるようにしていく。</p> <p>◎子どもと周囲の人との関係性に関すること ◎保育者や先生との関わりやサークルタイムの活動の配膳の場に関わりを持ち手を握ったり、友達の手を握りそれぞれのお話をすることができるようになる。</p> <p>◎サークルタイムの中で友達の話に対して子ども同士で聞きたいことがあったら一人ひとりお話を聞いてあげることができるようにする。 ◎異年齢の関わりを積極的に持ち、色々な人と関わる機会を増やしていく。 ◎園庭やクラスで遊ぶ中で異年齢と過ごす時間を増やし、年下の子に思いやりや上のお手本を見せたりできるように工夫を凝らす。 ◎サークルタイムの中で異年齢の友誼をテーマとして話し合い、年齢による考えの違いや合った関わり方について考える。</p>
--	---

自己肯定感
主体性
社会性
を育む視点

豊かな暮らしと生活の環境や支援

選別の観点・方向性	選別の内容・キーワード	★構成上の留意点やポイント ◎園児の工夫
<p>園児と保育者の関係性</p> <p>◎子どもと保育者の関係性に関すること ◎様々な状況の中で安心して過ごすことができるように保育者も意識しながら関わる。 ◎子どもと一緒に生活の中で言葉遣いや動作を丁寧に行い、常に子どもの視点であることを意識し、子どもたちも丁寧な姿勢ができるようになる。</p>	<p>◎子どもと保育者の関係性に関すること ◎様々な状況の中で安心して過ごすことができるように保育者も意識しながら関わる。 ◎子どもと一緒に生活の中で言葉遣いや動作を丁寧に行い、常に子どもの視点であることを意識し、子どもたちも丁寧な姿勢ができるようになる。</p>	<p>◎子どもと保育者の関係性に関すること ◎様々な状況の中で安心して過ごすことができるように保育者も意識しながら関わる。 ◎子どもと一緒に生活の中で言葉遣いや動作を丁寧に行い、常に子どもの視点であることを意識し、子どもたちも丁寧な姿勢ができるようになる。</p>
<p>園児の自主性</p> <p>◎自分で考えたり、挑戦しようとしたりする気持ちを褒める。 ◎子どもの話を聞きながらも、「じゃあどうしたらいいだろう」「〇〇はどうかなや」とさりげなく補強するなどして、自然と子どもが自分自身で考えを述べられるようにしていく。</p>	<p>◎自分で考えたり、挑戦しようとしたりする気持ちを褒める。 ◎子どもの話を聞きながらも、「じゃあどうしたらいいだろう」「〇〇はどうかなや」とさりげなく補強するなどして、自然と子どもが自分自身で考えを述べられるようにしていく。</p>	<p>◎自分で考えたり、挑戦しようとしたりする気持ちを褒める。 ◎子どもの話を聞きながらも、「じゃあどうしたらいいだろう」「〇〇はどうかなや」とさりげなく補強するなどして、自然と子どもが自分自身で考えを述べられるようにしていく。</p>
<p>園児と周囲の人との関係性</p> <p>◎保育者や先生との関わりやサークルタイムの活動の配膳の場に関わりを持ち手を握ったり、友達の手を握りそれぞれのお話をすることができるようになる。</p>	<p>◎保育者や先生との関わりやサークルタイムの活動の配膳の場に関わりを持ち手を握ったり、友達の手を握りそれぞれのお話をすることができるようになる。</p>	<p>◎保育者や先生との関わりやサークルタイムの活動の配膳の場に関わりを持ち手を握ったり、友達の手を握りそれぞれのお話をすることができるようになる。</p>
<p>園庭やクラスで遊ぶ中で異年齢と過ごす時間を増やし、年下の子に思いやりや上のお手本を見せたりできるように工夫を凝らす。</p>	<p>園庭やクラスで遊ぶ中で異年齢と過ごす時間を増やし、年下の子に思いやりや上のお手本を見せたりできるように工夫を凝らす。</p>	<p>園庭やクラスで遊ぶ中で異年齢と過ごす時間を増やし、年下の子に思いやりや上のお手本を見せたりできるように工夫を凝らす。</p>
<p>サークルタイムの中で友達の話に対して子ども同士で聞きたいことがあったら一人ひとりお話を聞いてあげることができるようにする。</p>	<p>サークルタイムの中で友達の話に対して子ども同士で聞きたいことがあったら一人ひとりお話を聞いてあげることができるようにする。</p>	<p>サークルタイムの中で友達の話に対して子ども同士で聞きたいことがあったら一人ひとりお話を聞いてあげることができるようにする。</p>
<p>異年齢の関わりを積極的に持ち、色々な人と関わる機会を増やしていく。</p>	<p>異年齢の関わりを積極的に持ち、色々な人と関わる機会を増やしていく。</p>	<p>異年齢の関わりを積極的に持ち、色々な人と関わる機会を増やしていく。</p>
<p>園庭やクラスで遊ぶ中で異年齢と過ごす時間を増やし、年下の子に思いやりや上のお手本を見せたりできるように工夫を凝らす。</p>	<p>園庭やクラスで遊ぶ中で異年齢と過ごす時間を増やし、年下の子に思いやりや上のお手本を見せたりできるように工夫を凝らす。</p>	<p>園庭やクラスで遊ぶ中で異年齢と過ごす時間を増やし、年下の子に思いやりや上のお手本を見せたりできるように工夫を凝らす。</p>
<p>サークルタイムの中で異年齢の友誼をテーマとして話し合い、年齢による考えの違いや合った関わり方について考える。</p>	<p>サークルタイムの中で異年齢の友誼をテーマとして話し合い、年齢による考えの違いや合った関わり方について考える。</p>	<p>サークルタイムの中で異年齢の友誼をテーマとして話し合い、年齢による考えの違いや合った関わり方について考える。</p>
<p>自己肯定感を醸成する要素</p> <p>◎無条件で愛される経験があること ◎成功体験があること ◎自己肯定感、自尊心の向上につながる経験</p>	<p>自己肯定感を醸成する要素 ◎無条件で愛される経験があること ◎成功体験があること ◎自己肯定感、自尊心の向上につながる経験</p>	<p>自己肯定感を醸成する要素 ◎無条件で愛される経験があること ◎成功体験があること ◎自己肯定感、自尊心の向上につながる経験</p>
<p>自己信頼性</p> <p>◎自分で決断し、行動できること ◎自己肯定感、自尊心の向上につながる経験</p>	<p>自己信頼性 ◎自分で決断し、行動できること ◎自己肯定感、自尊心の向上につながる経験</p>	<p>自己信頼性 ◎自分で決断し、行動できること ◎自己肯定感、自尊心の向上につながる経験</p>

保育室の環境構成とねらい・支援

家庭との連携

保育室を離れてクラスミーティングを実施

全ての保育者が意見を出し合って計画立案していくために、クラスミーティングの方法を見直しました。現在は保育室を離れて行うミーティングを各クラス月3回開催しています。そのうち1回は月の指導計画を立案するためのミーティングとして位置づけ、残りの2回は日々の保育の振り返りや相談の場としています。また保育について話し合うことはもちろんですが、チームとしての関係性を深めることも目的として、コーヒーなどを飲みながらリラックスできる場所で、たわいもない会話も歓迎のミーティングとしています。計画と実践の連動性が高まり、保育者一人ひとりの意見を取り入れやすくなったことによって、保育者は保育計画を考えやすく書きやすくなり、結果として業務に必要な時間が減少しました。

保育室を離れたミーティング



保育室を離れて行うミーティングを職員Caféスペースで各クラス月3回実施。うち1回は月の保育計画を立案するためのミーティングと位置づけ、計画立案にメンバーが携わりやすいように配慮。

保育について話し合うことはもちろん、チームの関係性を深めることも目的の一つ。

コーヒーなど飲みながらリラックスできる場所で行い、たわいもない会話も歓迎。

書式様式の見直しは他にも…

児童票の記録と家庭向けの記録、従来は2種類作成していたところを、両方の性格を併せ持つ記録として再構築できないかと考えました。その結果がラーニングストーリーという記録です。この記録の作成はこれまでの児童票と同じ頻度で行っていますが、保護者とも定期的に共有していくものとしています。記録内容も、評価や反省の視点というところを少し切り替え、子どものありのままの姿や関心、そしてエピソードから

始まる肯定的な記録にしました。この記録を、入園から卒園まで一冊のファイルに綴り、園内の保管書類として1冊、そしてもう1冊を卒園時に子どもへ手渡す計画をしています。記録といえば倉庫にしまわれているものという感覚がこれまではありましたが、子どもがやがて思春期や大人になった時、いつかこのファイルを手に取り、自分が子どもだったころのことを振り返る時が来るかもしれない、保育者がそのようなことにも思いを巡らせることができるラーニングストーリーは、記録としての意味やその存在意義が保育者にとっても大きく変わるものだと考えています。

ラーニングストーリーは一見、写真と文書があることにより、負担を感じそうな記録のため、その取り組みの開始までに研修など様々な準備を積み重ねてきました。また、保育者は写真の配置やレイアウトに時間をかける傾向があることも予見されたので、事前にテンプレートを何パターンか作成し、デザインなどに時間をかけなくても済むような工夫も加えました。

このように子ども一人ひとりの記録について見直しを図ったことで、これまで以上に丁寧に子どもの姿を観察しようという意識が生まれ、今まで気づけなかったことに気づけるようになり、子どもの姿を保育者間でポジティブに伝えあうコミュニケーションが増えたことが大きな収穫でした。

見直し

児童票の記録

期	子どもの姿	保育者の援助と子どもの姿
1期 4月1～31日	<ul style="list-style-type: none"> ● 登園の意欲が強い。友達と遊ぶのが大好き。 ● 言葉の発達に著しい進歩が見られる。 ● 遊びの中で友達と協力して遊ぶ姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育者の援助により、友達と遊ぶ楽しさを味わっている。 ● 言葉の発達を促すための言葉かけを行っている。 ● 遊びの中で友達と協力して遊ぶ姿を促している。
2期 7月1～31日	<ul style="list-style-type: none"> ● 友達と遊ぶのが大好き。友達と協力して遊ぶ姿が見られる。 ● 言葉の発達に著しい進歩が見られる。 ● 遊びの中で友達と協力して遊ぶ姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育者の援助により、友達と遊ぶ楽しさを味わっている。 ● 言葉の発達を促すための言葉かけを行っている。 ● 遊びの中で友達と協力して遊ぶ姿を促している。
3期 10月1～31日	<ul style="list-style-type: none"> ● 友達と遊ぶのが大好き。友達と協力して遊ぶ姿が見られる。 ● 言葉の発達に著しい進歩が見られる。 ● 遊びの中で友達と協力して遊ぶ姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育者の援助により、友達と遊ぶ楽しさを味わっている。 ● 言葉の発達を促すための言葉かけを行っている。 ● 遊びの中で友達と協力して遊ぶ姿を促している。
4期 1月1～31日	<ul style="list-style-type: none"> ● 友達と遊ぶのが大好き。友達と協力して遊ぶ姿が見られる。 ● 言葉の発達に著しい進歩が見られる。 ● 遊びの中で友達と協力して遊ぶ姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育者の援助により、友達と遊ぶ楽しさを味わっている。 ● 言葉の発達を促すための言葉かけを行っている。 ● 遊びの中で友達と協力して遊ぶ姿を促している。

家庭向け記録

なまえ	さん
6月	<p>この月、なまえさんが園で楽しそうに遊んでいました。友達と遊ぶのが大好きで、保育者の援助を受けながら遊ぶ姿が見られました。</p> <p>言葉の発達も著しい進歩が見られ、友達と話すことが大好きになりました。</p>
10月	<p>この月、なまえさんが園で楽しそうに遊んでいました。友達と遊ぶのが大好きで、保育者の援助を受けながら遊ぶ姿が見られました。</p> <p>言葉の発達も著しい進歩が見られ、友達と話すことが大好きになりました。</p>
1月	<p>この月、なまえさんが園で楽しそうに遊んでいました。友達と遊ぶのが大好きで、保育者の援助を受けながら遊ぶ姿が見られました。</p> <p>言葉の発達も著しい進歩が見られ、友達と話すことが大好きになりました。</p>
3月	<p>この月、なまえさんが園で楽しそうに遊んでいました。友達と遊ぶのが大好きで、保育者の援助を受けながら遊ぶ姿が見られました。</p> <p>言葉の発達も著しい進歩が見られ、友達と話すことが大好きになりました。</p>

登降園アプリ(ICT)へ移行

身体発育表			
月	身長 cm	体重 kg	胸囲 cm
4月	96.3	13.8	
5月	96.9	14.2	49.4
6月	97.3	14.7	
7月	98.0	14.7	
8月	99.3	14.7	
9月	99.8	14.8	
10月	100.3	14.7	
11月	100.3	15.2	49.8
12月	100.8	15.6	51.4
1月	101.4	15.4	
2月	101.7	15.6	
3月	101.7	15.8	

「児童票の記録」と「家庭向け記録」をドッキングできないか？

見直し



Learning Story

結果的にこのように見えることは、保育者の援助が子どもの成長に大きく影響していることを示しています。保育者の援助が子どもの成長に大きく影響していることを示しています。保育者の援助が子どもの成長に大きく影響していることを示しています。

Learning Story

- 子どものありのままの姿や関心からはじめる、**肯定的な観察・記録。**
- 従来の保育経過記録と同じ頻度で記入し、**随時保護者とも共有する。**
- 入園時から卒園時までのラーニングストーリーを**1冊のファイルに綴り、卒園式の際に手渡す。**（園では記録書類として1冊保管）

ノンコンタクトタイムの取得率向上に向けた可視化の推進

予定されていたノンコンタクトタイムの取得率が約70%程度にとどまっているという実情が見えてきました。ノンコンタクトタイムをあらかじめ予定していても、保育の中では日々想定外のことが起こるため、取得できなくなるケースも存在したようです。その改善のため、ノンコンタクトタイムとシフトを組み合わせ、可視化に取り組みました。

園全体で、いつ、どのクラスで、誰がノンコンタクトタイムを取るのか、それをわかりやすく可視化すること、その際フォローの保育者が必要なのかも含めて明確化することで、取得率が向上しています。また書類業務のためのノンコンタクトタイムは、保育士1人当たり子ども何人分の書類を担当しているのか、5人分であれば30分×5人分で月150分とし、その合計時間を月のノンコンタクトタイムのシフトに組み込む工夫をするなど、公平で計画的な付与を行っています。

保育室を離れる時間(ノンコンタクトタイム)をとるための時間と方法をシフトと連動させて園全体で可視化

主なノンコンタクトメニュー

● クラスミーティング
各クラス45分×月3回

● 保育士一人ひとりに
月案担当→月60分(記入担当)
個人書類→月30分×担当人数
※その他必要に応じて

MT
その他MT
書類
懇談
リフレクション
勤務時間
MT・その他
書類T・NC
フォロー

期間	2021年 8月 23日		2021年 8月 24日		2021年 8月 25日		2021年 8月 26日		2021年 8月 27日		累計	比率															
クラス	担当	MT・その他	書類	懇談	リフレクション	勤務時間	MT・その他	書類	懇談	リフレクション	勤務時間	MT・その他	書類	懇談	リフレクション	勤務時間	MT・その他	書類	懇談	リフレクション	勤務時間	MT・その他	書類	懇談	リフレクション		
担任	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
フリーの保育士	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
事務所	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						
	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27																						

一日の動き NCフォロー フォロー

保育者の主体性を高めるプランナー制度により、自分らしさを発揮できる職場づくりへ

DIY好きの保育教諭、農業をしていた調理師、ウエディングドレスを作っていた保育補助者、園にはそれぞれの自分らしさや個性を持った職員がいます。プランナー制度は、保育の質を維持し、高めていく上で必要な業務に対して、職種を超えて自分の得意とすること、関心のあることを通して計画・提案し、自分らしくチームに貢献することで帰属感ややりがいを高めることを意図して創設しました。現在は、絵本・園庭環境・装飾・ガーデニング・いきもの・写真・スタッフレクレーション・DIY、ネット検索と9つのプランナーがあり、保育者からの提案で新たなプランナーがつけられることもあります。

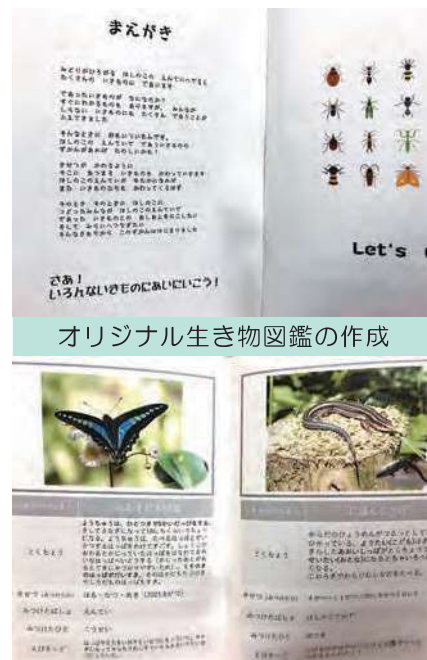
これらのプランナーには、職員一人ひとりが自分らしさを発揮できることと、誰かの苦手を補い合えることが、要素として組み込まれています。

例えば、いきものが好きな職員が、園で飼育する魚や生き物を提案する。その際、魚の性質を知るために、プランナー発信で琵琶湖博物館に行って淡水魚について調べたり、自分たちの子どもも連れて川へ魚を捕りにいき、園で飼育したりしています。半分趣味・半分仕事のような領域です。また、いきもの・写真・ネット検索の3プランナーが協働で、自園の園庭で出会うことができるいきもののオリジナル図鑑を、子どもたちのエピソードも添えて作っていくなど、プランナーの提案を通して保育が豊かになっていく事例もみられます。

提案したことが実現して園の中で形になる喜び、それは全ての職員にとって仕事のやりがい、そして充実感や成長にも繋がっていくものと感じています。



プランナーが川魚を見つけて園で飼育



オリジナル生き物図鑑の作成

保育・仕事の本質に目を向けた業務改善により、ポジティブなサイクルを職場に生み出す

保育の仕事の業務改善を考える時、ただ業務量を減らすことや効率化することにも増して、業務の本質を問い直し再構築すること、またそこに保育の質向上と子どもの最善の利益への視点が存在していることの大切さを、これまで色々な取り組みやうまくいかなかったプロセスも経験して感じています。

当初は15%程度あった離職率が、近年は約2%から5%に低減しています。また採用の希望者も増えたり、非常勤の職員が、もっと働きたいという思いを持ち、勤務時間を延ばしたいという意向を持つようになったり、保育補助者も、資格取得に積極的になってくれる人が増えてきています。

もちろん未だ課題はたくさんあり、シフトを組む業務が煩雑になっていたり、すべての人が付与されるノンコンタクトタイム内で業務が終わるわけではない現状もあります。また園独自の計画や記録の様式はその内容について質向上の観点からも日々向き合い続けていくものと考えています。

業務負担軽減に向けた「職場環境」⇔「保育環境」

カミヤト凸凹保育園

保育士が輝ける施設を作りたい

当法人は30年を迎える社会福祉法人です。高齢者施設、特別養護老人ホーム、デイサービス等の在宅介護を中心にやってきました。2019年にカミヤト凸凹保育園を開業しました。当法人の理念は、「共生・自律・寛容」で、事業・拠点区分に限らず、3つの理念を衷心に事業を展開していく事が土台として大事だと考えています。

凸凹保育園では、誰もが持つ「凸」に注目し、誰もが持つ「凹」を皆で埋め合うということを大事にしています。強みは何なのかと深く見ていく、そして弱みは互いにフォローし合うというコンセプトで運営しています。

園としては新参になりますので、業務改善というよりも、業務をどう構築するかを考えることになりませんが、ゼロベースから積み上げていったので、どこを起点に考えるかで皆さんの参考になればと思います。

保育園を運営する前にあらゆる雑誌や本を読み全国23園を見にいきました。プロジェクト保育やレッシュジョエミリアを行っている園に足を運んで、色んな取り組みに注目し、モンテッソーリやシュタイナーなどの歴史あるメソッドは非常に重要であることが確認できましたが、一方で、保育士が疲れている、顔が曇っているように思えた保育園も複数見受けられました。子どもたちの一番の教材は保育士であり、皆さんが輝ける施設を作りたいと考え取り組みました。

園庭に人がいると皆から見える空間づくりの訳

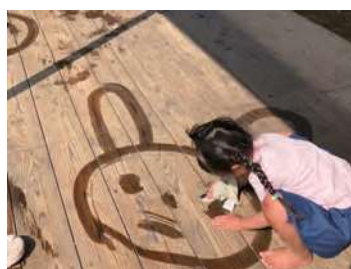
どんな園にするか考えた時に、いきついたのが「伽藍配置」と言われるお寺の作りでした。その形は死角がないので園庭に人がいると皆から見えます。園内における保育士の動線が、半屋外の廊下になっていることで視線が園庭へと抜けます。園庭で遊んでいる子どもたちを保育士がなんとなく移動しながらゆるやかに見守っていく事が出来るという意味で、保育士の業務の心理的な負担軽減につながっています。



子どもはみんなで見守ることを具体化する

建築物は建て直すことはできないので、考え方を伝えます。

保育室、遊戯室、園庭、それぞれの場所ごとに役割を決めて囲ってしまうのではなく、廊下という皆が使う空間を中間領域として取り扱うという方法であれば、取り入れられるかと思えます。廊下を活用すると、子ども達がやっていることを見られるし、境がないので異年齢の子達が自然と交わっていく事が起きています。廊下は中庭と接しており、そこの境



がないので、基本的には外でなければ難しかった事が、施設内からすぐアクセスできる空間で行われていることになります。

一人で担当する子どもを管理するのではなく、複数の職員が子どもを見る、という考え方に立つことで、この空間の良さを受け止めつつ、仕事も人と分かち合いながら進めていくことが自然とできるようになりました。

つながることが子どもの可能性を高め、職員のやりがいにつながる

外と内を繋ぐ中間領域を設け、水や土を使うなど遊びの選択肢を増やし、子どもの創意工夫で遊ぶバリエーションを増やすことで、障がいのある子ども、一緒に遊ぶ工夫が子どもたちから生まれます。

そして、職員達が緩やかな眼差しを子どもに向けて遊びや活動の選択肢を増やす保育をすることで、子どもたちが“出来る”ことの発見につながり、職員のやりがいを高めると同時に、必要以上の管理負担がない状況になることが業務負担の軽減につながります。



内側の廊を半屋外にすることで、外でも内でもない「中間領域」をつくり、外と内の遊びをグラデーションにすることで遊びの選択肢を増やす。子どもが遊び込める環境と保育士が見守れる環境

ICT活用はデバイスの選択から

当園ではスマートフォンを活用しています。スマートフォンは、ポケットに収まり、持ち運びがしやすいこと、また調べたい情報などへ迅速にアクセスができることが利点です。ぱっとスマホを取り出して、子どもたちのその場の様子を切り取り、保護者に共有する。保護者も喜び、それが保育士のやりがいにつながっています。業務の中に、やりがいを増やすことで、当保育園で働き続けようという気持ちにつながっていくのだと思っています。

当園は10ヶ国の海外に由来のある子どもたちが在園しているのですが、外国の言葉に翻訳しようとする、タブレットのような形態では持ち運びがしにくいのですが、ポケットから出したスマートフォンの翻訳アプリであればすぐコミュニケーションを取ることができます。お散歩に出た時に地図アプリを見せながら、“みんなでここに行ってみよう”と子どもたちと考えたり、買い物を園の用事でする際にも計算はできるなど、スマートフォンの良さがたくさんあると思います

ICTの導入というと費用が心配と言うことが言われますが、業務としてこのように活用したい、だから、これに投資して、他の費用は抑えようね、そのためにみんなで工夫しよう、ということで費用と工夫のバランスを考えて園の経営をしていくこと、それがとても重要だと思います。

このように、自園の運営において、理念や目標をどう位置づけ、それを運営に落とすとはどういうことか、建物などの形や業務の進め方、保育の仕方など、業務の枠組みをどう構成するのかが求められていると考えています。



ICTを活用する スマートフォンとは？

- ◆ カメラ
- ◆ ビデオカメラ
- ◆ アルバム
- ◆ 地図
- ◆ 辞書
- ◆ メモ帳
- ◆ 手帳
- ◆ 計算機

保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイドライン 業務改善実践に向けた事例集

令和4年3月発行

作成協力者

(五十音順、敬称略)

井上真理子(洗足こども短期大学)

岩田恵子(玉川大学)

大方美香(大阪総合保育大学) ※監修者

菊地加奈子(全国社会保険労務士連合会)

田澤里喜(玉川大学)

廣井雄一(國學院大學)

編集・制作

厚生労働省こども家庭局保育課

【著作権について】

著作権は厚生労働省が有しています。転載・複製を行う場合は、「厚生労働省：保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイドライン 業務改善実践に向けた事例集」と出典を明記してください。

